

# 男女がよきパートナーとして共に生きるために



たもつ ゆかりさん  
(オフィスピュア代表)

認め合い、支えあい、人と人がゆたかに確かにつながる力を地域の力に！

～武雄市男女共同参画啓発イベント実行委員会（武雄市男女共同参画推進市民会議・武雄市女性ネットワークの会・武雄市）では、男女共同参画講演会を開催しました。基調講演に、地域づくり男女共同政策で活躍の中たもつゆかりさんを迎え、また引き続き討論会に市内の男女5人にご登壇いただき、会場も一緒になって和やかに意見交換をいたしました。

（紙面の都合上、討論会のもようは、次号でお知らせします）

## 基調講演

地方分権改革の流れを受けて、新しい武雄市ができたのですが、武雄市に暮らしている一人ひとりが、「武雄市に暮らしていて良かったなー」と感じるような、そういう実感のある武雄市にしていくための取り組みと、従来中央集権の仕組みでは、国民一人ひとりに豊かな国の国民である実感がなかった。いろいろな産業が稼動して生産性をあげ利益をあげる。その利益の再分配が私達の暮らしまで回ってこなかったのではないかと。また、産業が回っていかうために資本がある。重要な資本の中に、資源エネルギーがあるが、この資源エネルギーをもらっている自然に配慮しなかったことで、今、地球環境問題が生じている。もう一つの大事な資源は、労働力。人です。労働力は私達の暮らしから提供されました。しかし、これも暮らしへの配慮を欠いたことで、過労死や少子化の課題も起きました。

全国あちこちの自治体の総合基本計画をみると、「人と自然にやさしく、かつ、活力のあるまち」とか、書



いてある。今までのような開発優先、外來型政策ではなく、やはり地域内の資源をちゃんとマネージメントできることを考え、暮らしの質の向上、暮らしやすいまち・地域づくりに男女共同参画が必要です。

地域を経営していく資源は、「人・金・物・情報」の4つです。「金」、今はどこにもありません。その中で、最大の経営資源は「人」です。長い間、同じ土地の縁を共有して生きてきた。見えない力は、「どこかで、何とかしたい」と思っているはず。そういう人と人とのつながりで、共に支えあう仕組みをどうするか、男女共同参画の政策の位置づけが、どういう風に差し込まれるかで、これが成功するかしらないかが決定すると思います。

具体的に地域自治の力でより良い武雄市づくりをして行こうと思った時に、すぐぶつかる問題があります。例をあげると、ある、鹿児島島の町で「未進半口」という慣習が残っています。農村地域ですから、基本的には、共同体組織で、いわゆる「世帯主義」。ずっと一家の長である男の人が中心で共同体組織を運営し、作業に出てくるのは、男性という意識でした。しかし、現実としては、女の人も半分は出てくる。「女の人は作業に出てきた上に金を払うのはおかしい。」と言われて、初めて話し合いが始まった。「できる事を、できる人が、できる所からやらないと地域はやっていけない。」それを、「男だから、女だから、若いから、よそ者だから」というような「排除の倫理」が、もつといえれば、多様なあり方を包み込めない地域は難しくなっていくわけです。

地方自治の先に暮らしの現場である地域自治です。暮らしの問題を、一番見え

ている人達によって取り組んでもらうのが最も確に解決できるからです。より良い暮らしづくりの根幹は人権です。私達一人ひとりには尊重されるべき個人であるんです。男女共同参画はこれまで、営々と地域社会が学習してきた人権のこの力を具体的に地域づくりに活かすために極めて重要だと考えていただきたい。

企業が国際競争力に打ち勝つためには、今、非正規雇用が多く置かれている若者や、なかなか対等に処遇を受けていない女性達をどのように扱うかを考えないといけない。10年後の戦力はこの人達です。「人こそ最大の経営資源」です。

これからの武雄市づくりを考えている今、この町の「人」を活かす仕組みを問われていきます。人と人が確かに、そして、豊かに繋がるためには、他者への共感、自分とは違う他者を、想像力を持って包み込む力が、この武雄市にあるのかなにかが、今、極めて重要な課題だと申し上げます。

（講演の全文は、ホームページでご覧いただけます）